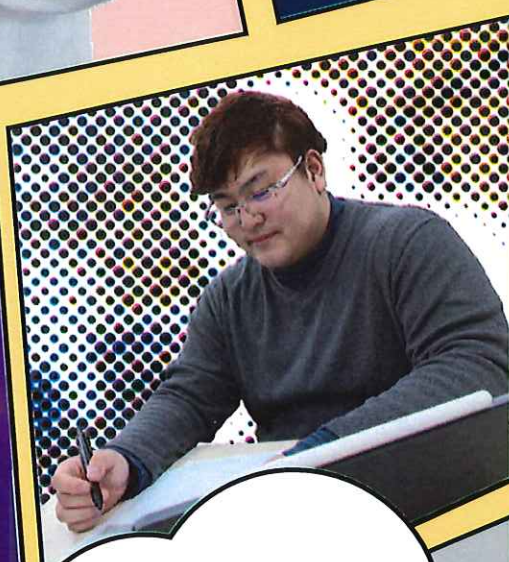
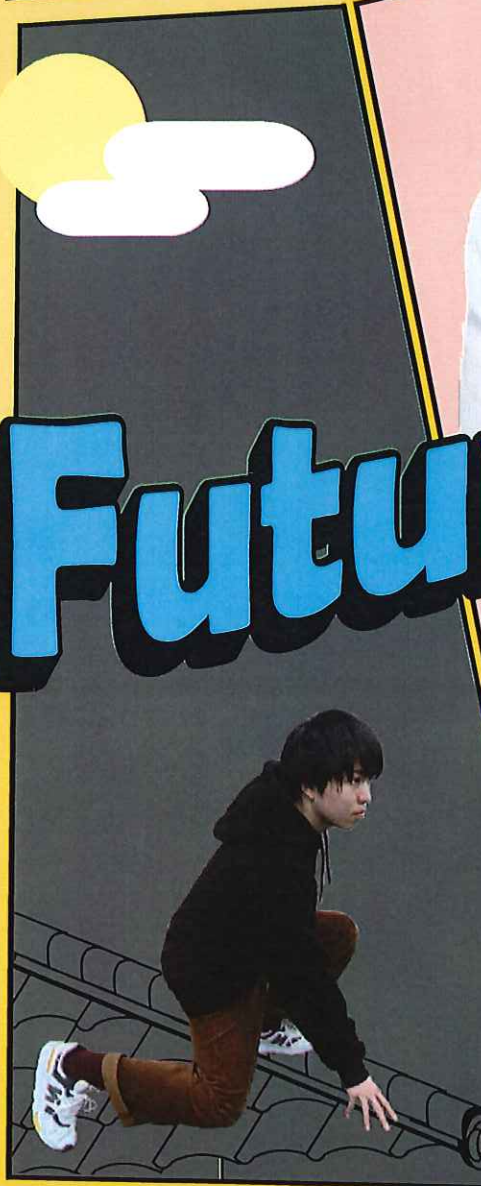


Let's
Read It!!

Future Design vol.3



directed by
FIT-jin

Introduction



学生 FD・
FIT-join とは？
p. 2



石原先生
p. 5-6

片山先生
p. 3-4



あの先生を
徹底分析！

7つの質問



中川先生
p. 7-8

土屋先生
p. 9-10



活動報告 &
メンバー紹介
p. 11-12

学生FD・FIT-joinとは？



学生FD活動とは

福岡工業大学における学生FD活動は、授業改善を教員・職員・学生の三位一体で改善する活動です。

FIT-joinはそのうちの、学生が組織する団体です。

FIT-joinとは

我々FIT-joinは、「**学びのコミュニティづくり**」を目標としており、

- ・本学の授業改善を学生の視点から考える
- ・教職員と学生をつなぐ

といった活動をしています。

(今年度の活動についてはp.11をご覧ください！)

FIT-joinに入るには？

福岡工業大学の学生で、月に1度のミーティングに参加できるメンバーを募集しています。

詳しくは、**E棟3階FD推進室**までぜひお越しください！





自分に責任を持って
努力してほしい

Q.1

授業を行う上で大切にしていることは何ですか？

内容をできるだけわかりやすく説明するように努力しています。大学の授業は難易度が高いので、例えを使ったりしていかにわかりやすく説明するかが教員の腕の見せ所ではないかと思います。

実際にできてるかどうかは別ですけどね（笑）

Q.2

今後授業で

取り組んでいきたいことはありますか？

今のところはありませんが、良いものがあれば随時取り入れていきたいですね。

Q.3

授業の工夫など取り組みの中で、苦勞している点はありますか？

最近はアクティブラーニングに力をいれるという話になっていますが、これがなかなか難しくて。演習問題を、周りの人と相談しながらやっていいよと言っているんですが、あまり活発にされているように見えないんですよね。やっている人もいるけど、全体で見ると静まり返っているような。うまいやり方があれば教えて欲しいです（笑）

Q.4

授業時間外で、心がけていることを教えてください。

学生に勉強する機会を与えるという意味で、授業資料や演習問題、テストの回答などをmy FIT にあげています。



Q.7

最後に、学生に伝えたいことは？

自分で目標を立てて、それを達成するにはどうすればいいか

計画も立てて、それに従って行動する、ということを言っています。例えば大学4年間だったら、4年後にどうなっていたいかという計画を立てて、それに従って行動して、時々それを振り返って成長できているかどうかを確認することが大切ですよね。目標を立てたら、自分で決めた期間で今の自分の位置からその目標までどう成長するかしっかり傾きを定めないといけない。他人が立てた目標なら達成できなくても何とでも言い訳できますが、自分で目標を立てるということは自分に責任を持つこと。達成できなかつたら言い訳はできませんよね。

Q.5

休日はどのように過ごしていますか？

単身赴任なので、たまに自宅に帰っています。こっちにいるときは大体仕事です。テストの採点や研究など忙しくて。

せっかく九州にいるので、もっと行きたい場所もたくさんあるんですけどね (笑)

Q.6

嬉しいと感じるのはどんなときですか？

学生が授業の意図をちゃんと分かってくれた時が嬉しいです。アンケートで、授業の狙いを理解しているような回答があったときなどですね。

FDメンバーの感想

普段知らない片山先生の新しい一面を知れて、とても新鮮でした。目標をもって学生生活を送ることの大切さを改めて実感させられました。先生の想いが伝われば嬉しいです。普段から授業の振り返りや学習する機会をたくさん与えてくださる先生です。

石原 真紀夫 准教授

情報工学部 情報工学科

スマホがあるという 環境を どう利用するか

Q・1

講義を行う上で一番大切にしている軸はありますか？

モチベーション管理です。自分から自主的に学習するような仕組みを意識しています。教えあいをより活発化させていきたいです。

Q・2

スライドではなく、共有画面に教科書を映し、手書きで解説するのはなぜですか？

考えながら内容を理解できるように工夫した結果ですね。スライドだと情報のスピードが速いという意見をよく聞くので。なるべくその時に頭に残るようアナログな情報提示も取り入れ、学生に寄り添う授業を心掛けています。

Q・3

授業の方針を教えてください

なるべく早い段階でその授業の全体像がわかるようにしています。最初は浅く広く、それから重要なところを掘り下げていくという感じ。学生が選ぶ教材も、最初は専門的にならず、全体が効率よく見渡せるものを選びます。

あとは学生が自分から学ぼうと思ってもらえるように意識しています。理解度の可視化や、レベル別ポイント制度などで。人というのは、ゲームに例えると、現在のレベルで手の届きそうな次の目標が設定されると、達成したくなるんですね。

Q.4 学生に対して思うことはありますか？

なんでもいいから授業で習ったことを活かして何かプログラムを作っ
てほしいと思っています。

課題に加えて、習ったことを試してほしいですね。

実際に手を動かすと、理解できていないことに気がついたり、逆に理解
できていることに気づき、自信になったりします。

努力している学生の知識やテクニックは格段に上がっていると感じます。

Q.5

休日はどう過ごされていますか？

小さい子供がいますので一緒に
公園に行ったり、浜辺に行ったり、
フルーツ狩りに行ったりして
自然にふれ合うようにしています。
天気の良い日は、デイキャンプを
することもあります。

Q.6

学生時代はどんな学生でしたか？

講義に来て、課題をこなしてと
いった姿勢でした。普通ですね（笑）
研究室に配属されてからは、研究室の
メンバーと夜遅くまで課題に取り
組んだり、ゼミの準備をしたり、
興味あるプログラムを作ったり
していました。

Q.7

IT 技術が発展して環境がどんどん変わる現在の
情報化社会について、どのように考えますか？

いつでもスマホがあるという環境は非常に恵まれていると思います。
それをどう利用するかが我々利用者に求められていることと思います。
動画は、一方向ですが視覚的で分かり易いメディアです。作り手の
工夫によって聞き手を引き込むことも可能で当面は、授業支援として

増えていきそうですね。
近い将来現在の授業に加え、
教員の教え方を学習した
AI が登場しそうですね。



FD メンバーの感想

お話の節々から、先生が学生の様子を分析していることが伝わってきました。
石原先生の講義は分かりやすいと学生からの評判も良いですが、それも
積み重ねてきた分析の成果なのかもしれないと、その凄さを実感しました。



大学はやればやるだけ 新たな学びが開ける

Q.1

授業を行う上で大切にしていることは何ですか？

各々が学ぶことや授業が必要だと思うこと、また感じてもらうことを大切にしています。

決められたことをやる高校までの勉強と違って、大学はやればやるだけ新たな学びが開けてきます。

Q.2

授業の雰囲気作りで心掛けていることは何ですか？

指摘はしても、頭ごなしに怒鳴らないことです。自ら気がついてもらえるのが一番です。

Q.3

授業では様々な工夫が見受けられました、その工夫にたどり着くまでの苦労された点を教えてください。

資料をまとめて先に配っておくことで予習のしやすい環境づくりを行うことです。15回の講義時間でどう終わらせるか、スピードをコントロールしています。

スピードが遅いといわれることもあります（笑）

Q.4

学んでいる内容にどのように
現実感を持たせようとしていますか？

授業を受けていく中で自発的に現実感を持ってもらえるよう努力しています。映像を用いるなどして、学ぶことへの「飢え（「なぜ」という気持ちや「もやもや」する気持ち）」を感じてもらえる授業を意識しています。

Q.5

休日はどのように
過ごしていますか？

寝ています（笑）
趣味・興味を仕事に
しているので休日も
研究やリサーチに
充てることもあります。

Q.6

先生は学生時代フランスへ留学していた
そうですが、フランスで驚いたことは
何ですか？

一面のひまわり畑に驚きました。鉄道に乗っているときに見た景色、今でも忘れられません。フランスには山がなく平野なので、見渡しても山が見えない。福岡でも、見渡したらどこかに山はありますよね。でもそれが無い。自分の知っている世界なんて、ちっぽけな世界ですよ。



Q.7

最後に、受講生や学生に
伝えたいことは？

大学は、将来に対する
投資です。

大学の授業の中で、歴史的な背景や様々な知識を学び、その中で皆さんの軸となるものの見方、とらえ方を形成する材料を拾ってほしいです。また、今自分が何をすべきか考えて動いてほしい。何か1つ興味のあるテーマを見つけ、学びのきっかけとし、自発的に取り組んでもらえれば、うれしく思います。

FDメンバーの感想

“飢えを感じてほしい”という言葉がとても印象に残りました。自分自身も飢えを探して探求していこうと思います。また講義ではAIと法学に焦点を当てるなど、工業大生にも親しみやすく面白かったです。

土屋麻衣子 教授

社会環境学部 社会環境学科
教養力育成センター

新しい

価値観や刺激から

広い視野を

Q.1

授業を行う上で大切にしていることは何ですか？

楽な姿勢で授業を受けて楽しんでもらうこと、
間違ってもいいから一人一人が発言すること、
わからないところをわからないと質問できる
環境づくり、を心がけています。

Q.2

英語での授業で、苗字ではなく
名前やニックネームで学生を
呼ぶのはなぜですか？

英会話では普通だからと
いうのもありますが、
良い意味で緊張感を無くし、
学生との距離を近くする
ことが出来るからです。

Q.3

可動式のホワイトボードを用いて
学生に書かせるスタイルが
特徴的ですが、その狙いは？

前に出て教壇のボードに書くのは抵抗感があると思うので、グループワークの中で、自分の意見を表しやすくするためです。自信にも繋がると考えています。

Q.4

様々な工夫をされていると感じましたが、その工夫にたどり着くまでの苦労された点を教えてください。

私が学生時代にこんな先生の授業が嫌だなと思ったことを反面教師とし、逆にこんな授業だったら参加するなと思う授業を創るようにしています。TVの情報番組などで、司会者がコメンテーターに話を振るときには必ず、名前を先に言って質問を投げかけているのに気づいたんです。学生さんに意見を聞くときには、心の準備をする時間を持てるよう、それを取り入れています。

Q.5

今後の授業で取り組みたいことは？

永遠の課題として「英語の力がついたと実感してもらえる授業づくり」を目指しています。そして、受講生自身ももっとアクティブになれるような授業を目指したいと思います。



Q.6

これまでに見た海外の景色や場所で印象的だったものは？

初めてのアメリカでのトイレです（笑）日本じゃ考えられなかったです。初めての場所に行けば、日常のひとつひとつに感動しますよ！

Q.7

最後に、受講生や学生に伝えたい事がありますか？

大学生の間にできれば海外に行って価値観や刺激をもらうことで、視野が格段に広がると思います。損するものではないので、自ら動いて経験して多様な気づきを得てほしいと思います。

FDメンバーの感想

これまで何気なく受けていた授業も、先生側から見ればひとつひとつに狙いがあることに気づきました。先生の授業に対する熱い思いを感じたインタビューでした。受講生もこのことに気づけば、より深い学びに繋がるのかなと思います。

活動報告

教員インタビュー



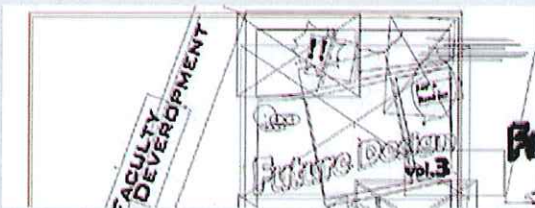
大学の先生方をインタビューして記事にまとめます!普段は見れない先生方の一面が見れたり...?

学生発案型授業



授業内容や構成まで全て学生が企画した授業です!興味があれば次回、ぜひ聞きに来ませんか?

FutureDesign 作成



今まさに読んで頂いている、この冊子を作ります!
FIT-join の活動を見て行ってね!

学生アンケート



アンケートで活動成果を測ります。
率直な意見をたくさん貰えるぶん
反省も喜びも大きいです。

FIT 学生団体サミット



学生が自ら運営する団体 (FIT-join、FIT 隊、学生自治会、FIT 女子会) に属している学生でサミットを開きました。
新鮮な学びがたくさんありました!

新入生オリエンテーション



新入生が安心して学生生活をスタートできるように、アイスブレイクやオリエンテーションを行います。
1年で一番規模の大きい活動です!

MEMBER LIST



玉城 翔

情報工学科 4 年
FIT-join の IT 担当
ポスターや冊子の
デザイナー



松永 魁稀

システム
マネジメント学科 4 年
学外まで独自の
ネットワークを
持つ情報通



岩橋 祐介

情報工学科 4 年
頑張り屋でいつも
みんなを引っ張る
リーダー



近藤 創太

システム
マネジメント学科 4 年
体育会系なまとめ役
後輩の面倒見なら
ピカイチ



高木 智弘

知能機械工学科 2 年
和やかでいて
熱い芯がある
しっかり者！

電子情報工学科 3 年
いつも明るい
FIT-join の
盛り上げ役！



倉員 奈央

電子情報工学科 4 年
企画をピリッと締める
一言を放つ頭脳派。
身長も視座も高い



江口 ひなの



永田 祐也

電子情報工学科 3 年
ポジティブのかたまり
光り輝く期待の
次期リーダー



木ノ原 佑真



平川 将太

電子情報工学科 2 年
なんでもこなす！
フォローは任せろ
頼れる万能社長



電気工学科 3 年
落ち着いた判断で
行動できる、皆の
お兄さんの存在

and you!

FACULTY DEVELOPMENT

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

発行元：福岡工業大学 FD 推進機構

〒811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1 E 棟 3 階

TEL : 092-606-7370 FAX : 092-606-7379

Web : <http://www.fit.ac.jp/> Mail : o-fd@fit.ac.jp

発行日：2020 年 3 月 10 日

編集・作成：FIT-join（学生 FD）・FD 推進機構